

研 修 名	平成19年度地域寺子屋推進ゼミナール		
主 催 者	(財) 山口県ひとづくり財団 県民学習部生涯学習推進センター		
所 在 地	〒754-0893 山口県山口市秋穂二島1062		
連 絡 先	TEL 083-987-1730 FAX 083-987-1760 URL http://www.kagayaki.pref.yamaguchi.lg.jp/		
推 薦 支 援 センター等名	(財) 山口県ひとづくり財団 県民学習部生涯学習推進センター		
研 修 分 類	1 学校と地域の連携を内容とする研修プログラム		○
	2 その他 ()		
研 修 コー ス	1 基礎コース	○	2 スキルアップコース ○
	3 その他 ()		

研修の実施に至る背景

近年、少子高齢化が進む中、生涯学習は高齢者を対象とするにとどまらず、地域の家庭教育への支援も重要となってきた。高度経済成長を支え続け、仕事上の知識・技術を有し、幅広い人間関係の中で経験を積んできた多くの団塊世代が定年を迎えたが、その世代の帰る地域コミュニティは、市町村合併、地域組織の構造改革、経済力、教育力の低下等の課題を抱え試行錯誤が続けられている。

また、県民の生涯学習に対するニーズは多様化し、より高度で実践的な学習機会の提供が求められている今日、県民の学習ニーズに即した今日的な課題やより生活に密着した課題を取り上げ、学んだことが実際の活動に生かされることが求められている。

当センターの管理運営母体であった山口県教育財団が、平成16年度に山口県ひとづくり財団に名称変更とともに移行してからは、特に「地域づくりは人づくり」という基本的な考えの下に、実践的・体験的な講座等により、活力ある地域社会づくりを先導する人材の育成に重点を置いて事業を推進することとしてきた。

そこで、平成18年度から3年間の継続予定で、団塊世代を中心とした地域住民を対象に、地域における子育て支援や小・中学生への支援を目指す寺子屋や支援塾等を立ち上げる企画・運営方法を身に付けることを通して、地域づくりに貢献する人材を育成する講座「地域寺子屋推進ゼミナール」を開設した。

研修の企画・立案

学びを学びで終わらせず、学んだことが実際の活動に生かされるようなシステムを構築し、講座終了後、ネットワークを構築して地域活動に参画し、その推進力となる人材の育成を目指すため、受講者が3年間同じ講座を継続して受講することにより、ホップ・ステップ・ジャンプとスキルアップしていく実践的な講座を企画することとした。

〈年次計画〉

- 1年次（平成18年度） 学ぶ
講義・グループ編成・ワークショップ・活動計画の総点検
- 2年次（平成19年度） 活動する
自立支援のための活動計画作成・実践活動の試行
- 3年次（平成20年度） 自立する
各地域で本格的にパイロット事業としての実施

3年間同じ受講者で研修することを原則としているが、中には1年で辞めていった受講者があり、地域で実践活動をするための協力者も必要であることから、新規の受講者も受け入れながら1年次の復習も踏まえつつスキルアップを目指して、平成19年度に2年次を迎えた「地域寺子屋推進ゼミナール」は次のような内容及び方法とすることとした。

- 1 グループづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・ワークショップ
- 2 子育て支援のあるべき方向について・・・・・・・・・・講義
- 3 事業展開に向けて（課題の分析・方法）・・・・・・・・・・ワークショップ
- 4 事例研究（先進事例に学ぶ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・講義
- 5 実践活動プログラムの立案・・・・・・・・・・・・・・・・・・ワークショップ
- 6 グループごとの実践活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・フィールドワーク
- 7 実践活動の整理・報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ワークショップ
- 8 研修評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・講義
- 9 3年次への展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ワークショップ

基本的に中心となる講師は3年間継続して指導していただき、その講師と相談しながら1年ごとの流れを企画し、実践活動のプログラム立案・報告が中心となるため、KJ法を活用したワークショップを取り入れた。

研修の内容

① 主催及び共催

主 催 （財）山口県人づくり財団県民学習部生涯学習推進センター

② 対象者及び定員

対象者 生涯学習活動を志す人、放課後子ども教室のコーディネーター等

定員 30名

③研修プログラムの展開内容

会場：山口県セミナーパーク一般研修棟研修室及び交歓室

講師：生涯学習・社会システム研究者 三浦 清一郎

九州女子短期大学 准教授 大島 まな

期日：平成19年4月14日（土）～15日（日）（1泊2日）

平成19年6月16日（土）～17日（日）（1泊2日）

平成20年1月26日（土）～27日（日）（1泊2日）

平成19年4月14日（土）		平成19年4月15日（日）
9:00	受付	ワークショップ 「KJ法を活用したグループ別 状況の診断と問題の発見I」
9:30	開講式 アイスブレイキング グループづくり	
11:00	基調講義1 「研修の約束」	ワークショップ 「診断結果を構造図に配列」
12:00		
13:00	基調講義2 「子育て支援（ひとづくり・地域づくり）とは何か？」	第1回全体発表 「グループ別構造図の発表」
14:10	基調講義3 「想定される地域の緊急課題」	
15:20	基調講義4・ワークショップ 「KJ法の原理と留意点」	次回の研修に進むために
16:30		
18:00	ポットラックパーティ（交流会）	
20:00	宿泊棟へ	

平成19年6月16日（土）		平成19年6月17日（日）
9:00	受付	ワークショップ 「問題の解決処方箋の提案と活動 計画の立案」
9:30	講義 「ケーススタディ～実践に学ぶ～」	
11:00	ワークショップ 「活動計画のモデリング」	ワークショップ 「グループ別活動計画の発表」
12:00		
13:00	ワークショップ 「問題の解決処方箋の提案と活動計画の 立案1」	ワークショップ 「グループ別活動計画の発表」

14:45	ワークショップ 「問題の解決処方箋の提案と活動計画の立案2」 グループ討議結果のKJ法図解	全体協議 講師講評「関連機関や個人的ネットワークづくりのワンポイントアドバイス」
17:00		
18:00	ポットラックパーティ（交流会） 他グループとの交流	
20:00	宿泊棟へ	

7月～12月 作成したグループ別企画を地域において実践

グループ	塾名	主な実践内容
下関市	下関わんぱく塾	登山を中心としたプログラム
山口市	井関夏休みこども元気塾	児童クラブでの教育的プログラム
周南市	わくわくエコ体験塾in八代	環境学習プログラム
岩国市	きらきら輝くこども元気塾in美和	宿泊体験活動プログラム

平成20年1月26日（土）		平成20年1月27日（日）
9:00	受付	ワークショップ 「今後の活動と重点目標」 グループ別まとめの発表
9:30	講義・ワークショップ 「実践と研修の評価」	
11:10	ワークショップ 「活動経過の整理・報告」	
12:00		
13:00	ワークショップ 「今後の実践計画Ⅰ」	総括講義Ⅰ 「活動計画の総点検」
14:30	ワークショップ 「今後の実践計画Ⅱ」	総括講義Ⅱ 「自立にむけての抱負と展望」
15:40	発表の準備	総括講義Ⅲ 講師総評 「最終年度の実践に向けて」
16:30		
18:00	ポットラックパーティ（交流会）	
20:00	宿泊棟へ	

研修の実施に当たってのポイント・留意点

3年間の継続講座であり、年次ごとにホップ・ステップ・ジャンプとスキルアップすることをねらっており、1泊2日を1年間に3回実施し、それ以外の日程で実践活動をするという、計画→実践→評価→改善→次年度へというPDCAサイクルに沿った非常に密度の濃い講座である。



KJ法を活用した分析

KJ法を活用してグループ別討議、プログラム立案、発表の手順を進め、実践活動の試行を通して企画力・運営力が身に付くようにした。



構造図・プログラムの発表



グループ別の実践活動



改善・次年度へ向けて

1泊2日の厳しい日程の中であって、1品持ち寄り方式のポットラックパーティを行う交流会は、親睦を深めるというだけではなく、グループや各自の意欲付けにつながるという大きな役割を果たしている。

7月～12月には、講座で作成した各グループの企画を実践するため、受講者が地域において子どもたちを募集し、宿泊体験活動や児童クラブに教育的プログラムを取り入れた活動などを運営した。それらの実践活動については、講師・担当者・他のグループの受講生が相互視察をすることによって刺激を受け、それぞれが切磋琢磨しながら自分のグループの実践活動の運営の仕方に反映させている。

講座は2年次ではあるが、実践活動に結びつく企画立案をするには、1回目の1泊2日では無理だったので、年度当初10月に予定していた2回目を前倒して、4月と6月の4日間でプログラムづくりの詳細までこぎ着けることができた。常に受講者の実態と状況を把握することで、弾力的に修正をしながら講座を進めている。

また、実践活動をするには経費が必要になるので、各グループに経費の助成をして実践活動を充実させた。

研修の成果と今後の取組

PDCAサイクルにより企画・立案→実践活動を1年次、2年次と繰り返してきた成果として、地域での実践活動の足がかりを築くことができたのではないかと、2年次ということもあり、実践活動を見通しながら研修を進めることができるようになってきたと思う。

講座では制限された時間の中で、発表したり講師や他のグループから厳しい質問を受け

たりするやりとりの繰り返しによって、企画がより詳細かつ実践的になるとともに、受講者個々のプレゼン能力も向上してきており、年々受講者が成長していくのが見えてきた。

当初の年次計画では、2年次で実践活動を行い3年次で自立すると計画したが、平成19年度の講座が終了した時点で、年次ごとにプログラムの企画や実践活動はスキルアップしてきたものの、年次計画どおり3年目で地域へ本格的にデビューするには時期尚早ではないか、自立は実際には困難ではないかと感じ、3年次もまず実践活動のプログラム計画を立案し、2年次よりグレードアップした実践活動を行うこととし、修正を加えながら講座を発展継続することとした。

執筆者職・氏名：(財) 山口県ひとづくり財団

県民学習部生涯学習推進センター 主査 大迫 敦子

コーディネーターからの一言コメント

3年間にわたる本格的・実践的な研修である。内容的にも講義・演習(ワークショップ)・実践活動を組み合わせて地域の課題解決の実践につながるものになっている。実践活動後の評価を次の実践計画の策定につなげてサイクルを形成し、「評価」をしっかりと位置付けていることも注目点である。ワークショップはKJ法を多用して参加者の主体性を重視している。参加者のネットワーク形成に交流会も重要な働きを演じている。参加者の実情に合わせて研修計画を変更している点も好感が持てる。

(橋本 洋光)